

北海道駒ヶ岳の火山活動解説資料（平成24年8月）

札幌管区気象台
火山監視・情報センター

火山活動に特段の変化はなく、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められません。
平成19年12月1日に噴火予報（噴火警戒レベル1、平常）を発表しました。その後、予報警報事項に変更はありません。

○ 活動概況

・ 噴気などの表面現象の状況（図1-①～③、図2～5）

昭和4年火口の噴気は今期間観測されませんでした。

31日に北海道の協力を得て上空からの火口観察を実施しました。各火口からの噴気は認められず、状況に特段の変化はありませんでした。

・ 地震及び微動の発生状況（図1-④～⑥、図6）

火山性地震は少なく、地震活動は低調に経過しました。

火山性微動は観測されませんでした。

・ 地殻変動の状況（図7～8）

GPS連続観測では、火山活動によると考えられる地殻変動は認められませんでした。

この火山活動解説資料は札幌管区気象台のホームページ(<http://www.jma-net.go.jp/sapporo/>)や気象庁のホームページ(<http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/volcano.html>)でも閲覧することができます。

※ 資料は気象庁のほか、国土地理院、北海道大学、北海道、森町のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図50mメッシュ（標高）』を使用しています（承認番号 平23情使、第467号）。また、同院発行の『数値地図25000（地図画像）』を複製しています（承認番号 平23情複、第492号）。

次回の火山活動解説資料（平成24年9月分）は平成24年10月9日に発表する予定です。

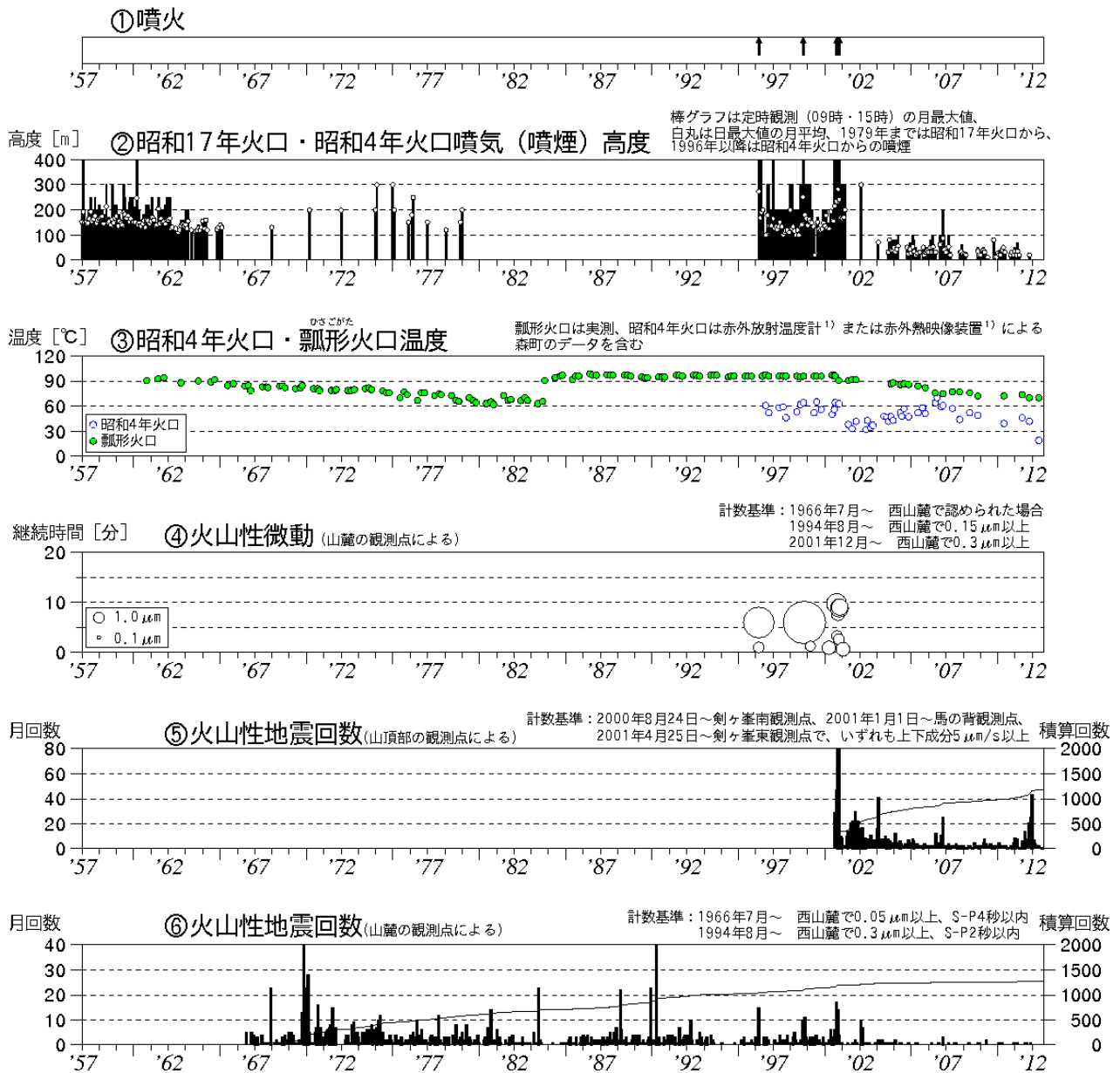


図 1※ 北海道駒ヶ岳 火山活動経過図（1957年 1 月～2012年 8 月）

1) 赤外放射温度計や赤外熱映像装置は、物体が放射する赤外線を検知して温度や温度分布を測定する計器です。熱源から離れた場所から測定できる利点がありますが、測定距離や大気等の影響で実際の熱源の温度よりも低く測定される場合があります。

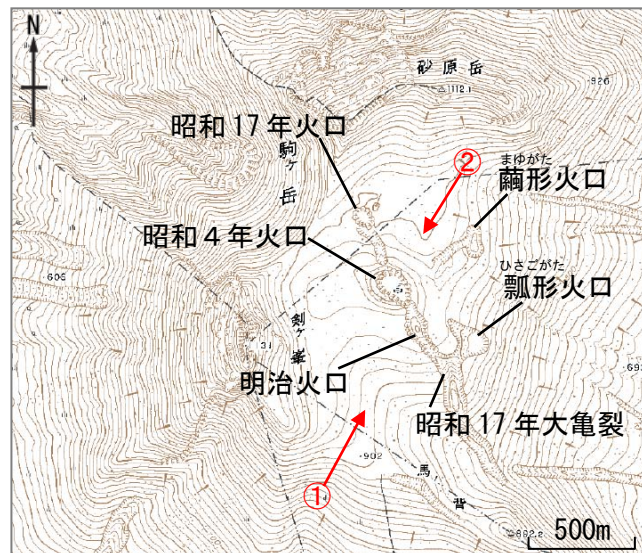


図 2 北海道駒ヶ岳 火口周辺図と写真の撮影方向（赤矢印）



図 3 北海道駒ヶ岳 山頂火口原の状況
南西側上空（図 2-①）から撮影



図 4 北海道駒ヶ岳 昭和 4 年火口の状況
北東側上空（図 2-②）から撮影



図5 北海道駒ヶ岳 山頂部の状況（8月31日、鹿部公園南東遠望カメラによる）

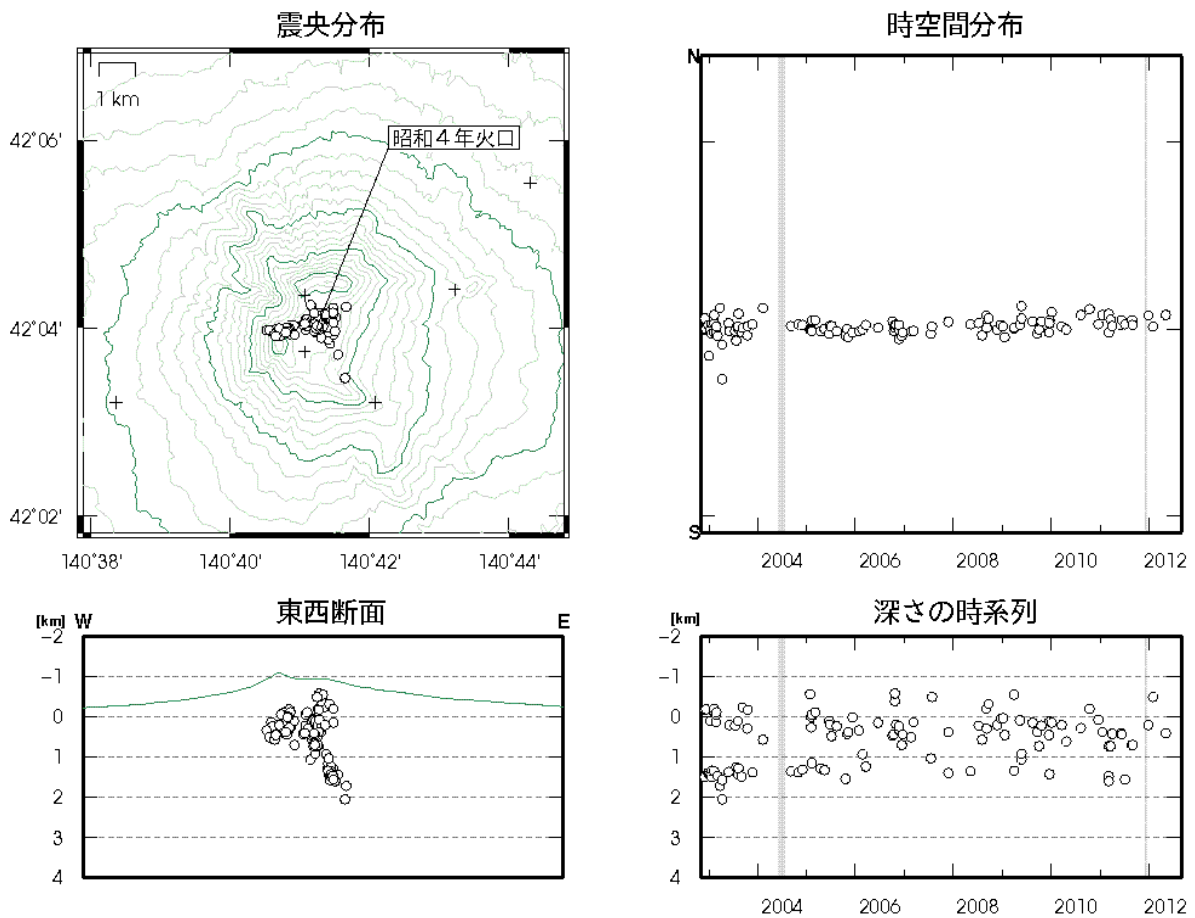


図6※ 北海道駒ヶ岳 火山性地震の震源分布（2002年12月～2012年8月）
 灰色の期間は一部観測点欠測のため震源の決定数減少や精度低下が見られます
 ○印：2002年11月から2012年7月の震源
 ・今期間、震源が決定された地震はありませんでした
 ＋印：地震観測点

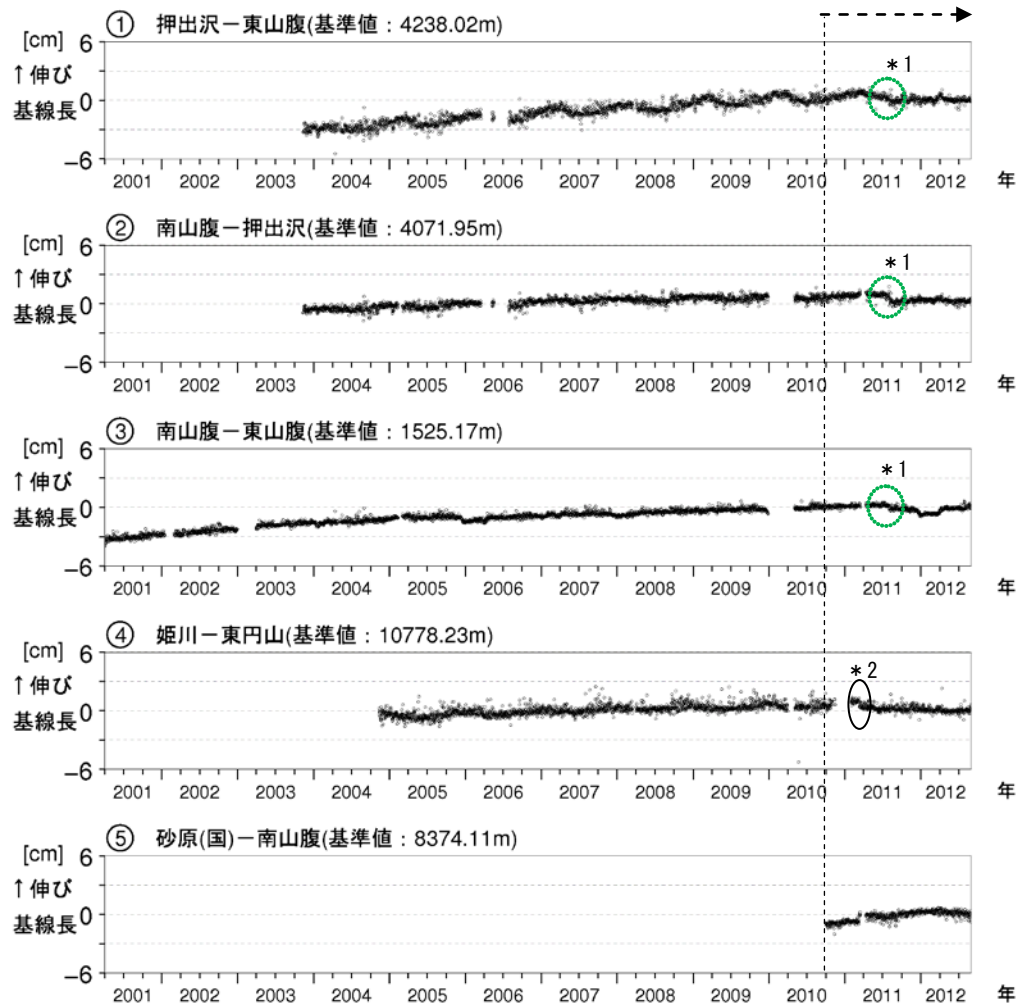


図 7 ※ 北海道駒ヶ岳 GPS連続観測による基線長変化 (2001年 4 月～2012年 8 月)

- ・ グラフの空白部分は欠測 GPS基線①～⑤は図 5 の①～⑤に対応
- ・ * 1 : 緑点線円の変動は、機器更新によるものです
- ・ * 2 : 楕円内の変動は、2011年 3 月11日に発生した東北地方太平洋沖地震の影響によるものであり、火山活動によるものではありません
- ・ 2010年10月以降のデータについては、電離層の影響を補正する等、解析方法を改良しています

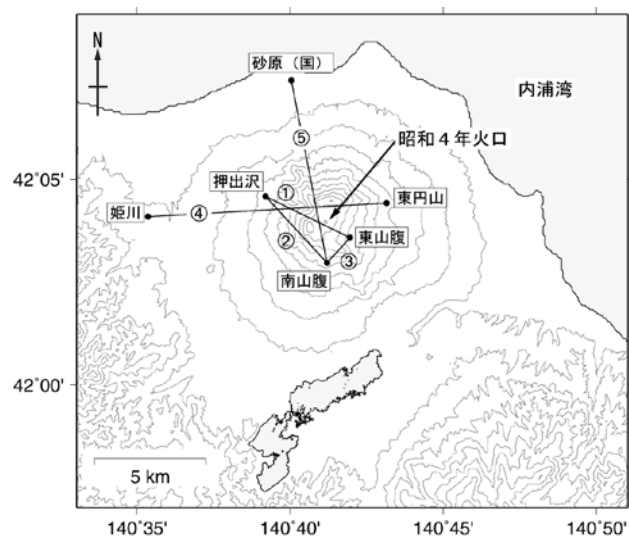


図 8 北海道駒ヶ岳 GPS連続観測点配置図
(国): 国土地理院

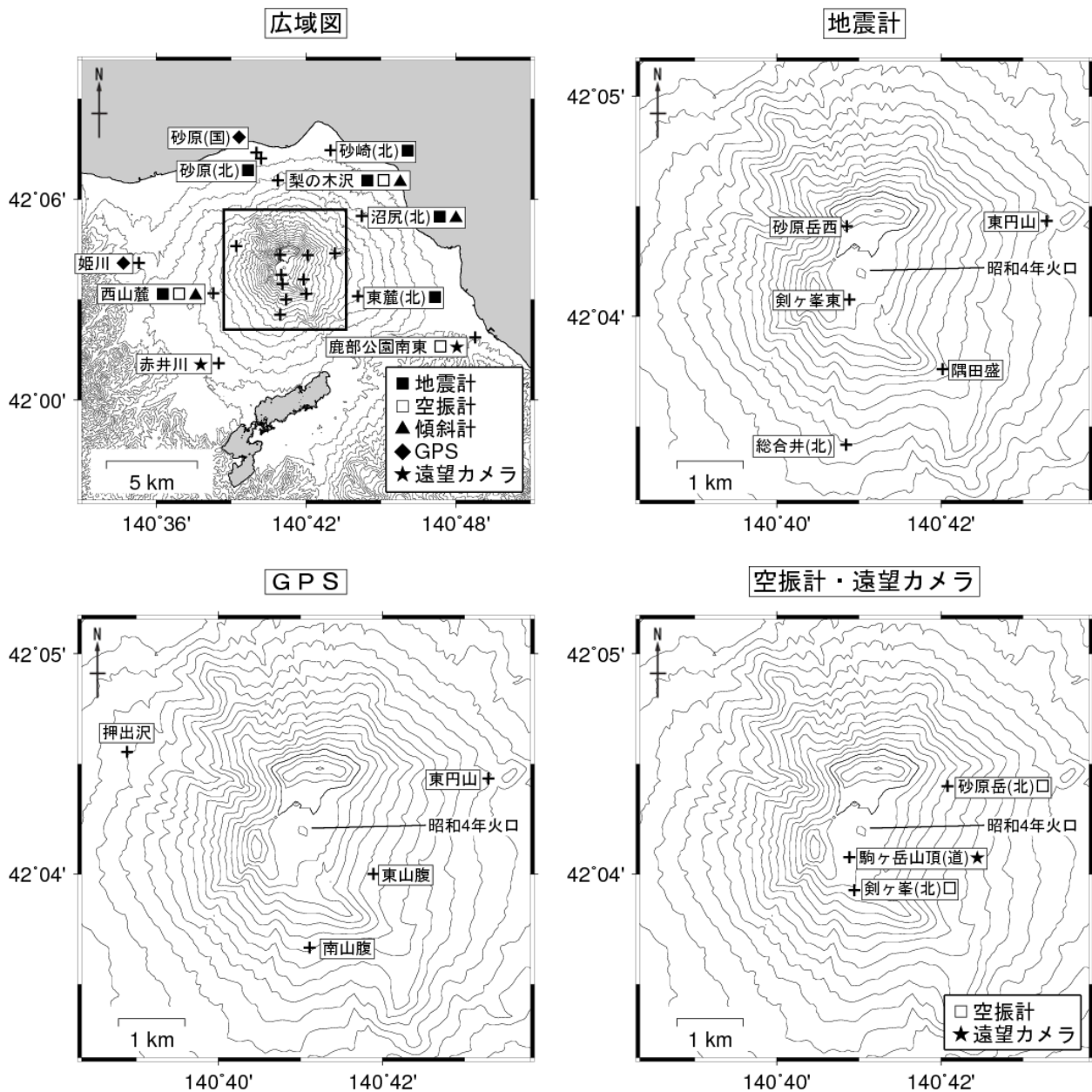


図 9 北海道駒ヶ岳 観測点配置図
 広域図内の口は地震計、GPS・傾斜計、空振計・遠望カメラそれぞれの範囲を示します
 +は観測点の位置を示します
 気象庁以外の機関の観測点には以下の記号を付しています
 (国)：国土地理院
 (北)：北海道大学
 (道)：北海道